

**“サロン”新型コロナウイルス
感染防止の為、自粛中止！！**

新型コロナウイルス感染防止の為、サロン開催は下母畑サロンの1ヶ所のみ三密を避けて行いました。



**“白菊学級”定健診断結果に
基づく健康相談実施**

2/10（水）白菊学級は定期健康診断結果報告書に基づき個人毎に小針保健師の指導を頂きました。



新型コロナウイルス対策交付金事業で「図書」を購入しました！！

新型コロナウイルス対策交付金事業で母畑自治センターでは、図書新刊を下記の通り購入致しましたので区民の皆様、是非とも足を延ばして頂いてご購入をして見て下さい。お待ちしております。

- *AIとともに生きる未来 全4巻
- *面白くて眠れなくなるシリーズ 理系 8巻
- *絵本 チコちゃんに叱られる 既3巻
- *面白くて眠れなくなるシリーズPART2 7巻
- *鬼滅の刃 1～22巻
- *はっけん！鉄道NIPPON地図と路線で知る
- *銀河鉄道の父
- *はっけん！NIPPON地図と新聞で見る47都道府県
- *ファストラブ
- *ビジュアル地球探検図鑑
- *宝島
- *子どもに伝えたい伝承遊び 24巻
- *百年泥
- *少年と犬
- *おらおらひとりていくも
- *破局
- *マンガ科学を好きになる！ 8巻
- *背高泡立草
- *R（ラウンド）1分34秒

3月の行事

- | | |
|---|---|
| 2日（火） 9:30 湯郷渡サロン
講師：ニチイ学館 | 12日（金） 13:30 上母畑いきいき体操
講師：廣田智（理学療法士） |
| 6日（土） 13:30 書道教室 | 18日（木） 9:30 湯郷渡いきいき体操教室
講師：廣田智（理学療法士） |
| 6日（土） 13:30 自主防災部会 | 18日（木） 13:30 下母畑いきいき体操教室
講師：廣田智（理学療法士） |
| 9日（火） 13:30 下母畑サロン
講師：井上真由美（リードシステム） | 20日（土） 13:30 書道教室 |
| 10日（水） 13:30 白菊学級 | 25日（木） 13:30 ハーモニカ教室 |
| 11日（木） 13:30 ハーモニカ教室 | 27日（土） 13:30 書道教室 |

編集後記 令和2年度は今年3月で終わって仕舞いますが、母畑自治センターとしての三大大行事（母畑地区スポーツ大会、母畑地区敬老会、母畑地区文化祭）、まちづくり委員会のねむの木まつり、カカシまつり、そして母衣旗盆踊り保存会の盆踊り大会等何もできませんでした。
令和3年度は、コロナが終息して全てのイベントが出来て地域の皆さんに元気を与えるようになって欲しいと思っております。皆さんそれまで頑張りましょう！

母畑自治センターだより 母衣旗 今月の題字（289）小3 矢吹太心さん	教育目標	令和3年3月	第572号
	「輝け！ 母衣旗」	発行日	令和3年3月1日
		発行所	母畑自治センター
		責任者	センター長 瀬谷 長一

第三回企画推進委員会（先月号からの続き）

（4）自治協議会要望活動

- *7月15日 町長要望活動
自治協議会3役、区長会4名
 - i. 生活道路の整備促進
 - ii. コミュニティ施設の早期整備

*要望結果

- i. 母畑の道路に優先的に予算配分（町長）
国、県の補助事業活用：中山間地域農業農村総合整備事業（農林水産省補助事業）
 - ・9月16日 県中農林事務所現地調査
 - ・12月23日 県中農林から現地調査結果報告
- ii. コミュニティセンター整備を進める
 - ・12月7日 12月定例議会において菊池美知男議員への答弁

Q：統合後の廃校利用について

- A：旧母畑小校舎は解体工事が完了し、母畑自治センターの移転先としての土地利用を進めている。
- ・来年度の予算要求で校庭進入路の実施設計を要求中
 - ・拡幅するための用地についても協力を要請した

*企画委員へのお願い ⇨ コミュニティセンターの平面プランニング

- 必要な間取りと配置 例：調理室、会議室、トイレ、大ホール、図書室、事務室）
上記例以外の部屋とその利用の理由
- ・体育館との一体利用を考える
 - ・将来の人口減少を考えに適正規模とすべき
 - ・全体が見渡せるようなオープンスペースを取り入れる…等の意見が出された

（5）母畑地区自主防災部会発足

- 自主防災部会の必要性
台風19号の避難、消防団員のなり手不足、火災発生時の後方支援、行方不明者捜索行政担当者のみでは手不足、地域の自助、お互い様の手助け
- 10月23日 第4回理事会で発足 自治協議会規約改正、自主防災部会会則を定める
- ・12月11日第1回自主防災部会
自主防災部会員の承認、役員決定、自主防災行動計画の承認
自主防災部会役員・会員名簿：25名

以上

瀬戸の観音様について』

母畑実年大学講座 塩田ハナ

観音堂の本尊は正観世音菩薩で、創立・縁起は正確な記録はないが湯坂の現在の清野氏の裏山中腹に湯前院西福寺があり、今も寺跡といわれ下の段は池になっている。この西福寺の観音堂で仙道三十三観音第十六番札所にあたり、個人・団体の巡拝者が今も多く訪れる。

堂の棟札に「正徳三癸巳(一七一三年)天大導師乗蓮寺法印宥海泰造立正観音堂一字 別当湯前院禅栄」とあり、又屋根替入仏供養観音堂宇 享和二年(一八〇二年)、「領主の武運長久祈願札 文政元年(一八一八年)孟夏下旬」。新しいものでは明治・大正の祈禱札もある。厨子は立派なものであるが本尊は紛失している。下二五段、上十五段の石段を上がると境内には地藏尊、庚申塔、その他年不明の碑十数基程あり、往時の信仰の盛んであったことを物語っている。西福寺跡の墓地の僧碑をみると、幕末(一八四八年)には寺院の存続していたことがわかる。

磨崖仏をたずねて

先月号からの続き

この磨崖仏の造営には、西暦四六〇年に始められ約七〇年間を費やして完成された。まことに北魏時代(三八六〜五三四年)の貴重な仏教遺産である。わが国の磨崖仏は、全国に約二〇〇か所ほどあるとされている。その中で平泉達谷窟(岩手県)、泉沢薬師堂(福島県)、日石寺不動明王(富山県)、狛坂寺弥勒仏(滋賀県)、佐木島地藏(広島県)、臼杵磨崖仏群(大分県)等が有名である。

今回、私のたずねた蝦夷岳山麓の磨崖仏は、福島県石川町母畑から須賀川市に通ずるバス道路、母畑〜須賀川のほぼ中間、狸森部落で須賀川に向かってバス道路から右に山道を約二キロメートルほど車で登ると、そこに小平祐心氏居宅がある。ここで車を降りた。

地番をたずねると須賀川市大字狸森字上新田一九五番とのことであった。この先には民家が無く奥まった山地であるが、小平さんの家は屋敷構えが豪壮で、立派な旧家であった。白壁土蔵のかたわらには、樹齢五〇〇年余と推定されるしだれ桜の巨樹が午後の陽射しに一段と映え、むかしの面影が残されていた。当主の小平祐心さんは、むかし京都で山伏の修験をされたという人で、齢い七〇有歳というがかくしゃくと余生を過していた。小平家は、先祖代々継いできた法印であるが、むかしの住居は現在の居宅から離れた「舟が城の跡」といわれている場所に館があった、その館に代々居住していたという。十一世紀(平安時代)頃、この地に源義家(八幡太郎)が蝦夷岳の地方武士討伐の折、この館を拠点にして戦い、館を引き上げる際に、この館主に八幡の姓を与えたとされている。

小平家の過去帳には、その当時から代々八幡の姓で記録されているが、数代前から養子縁組により小平の姓に改められていた。上新田にある現在の小平家の屋敷続きには、聖権現、熊野権現、不動明王などの御堂があり、古い仏像や仏具等が安置されている。これ等はいずれも小平祐心さんが管理にあたっている。



10. 観音堂



母畑字瀬戸



小平祐心さんの案内で細い山道を一キロメートル程歩き磨崖仏のある所に着いた。

両側は勾配のけわしい雑木林で尾根に続き、その合間の谷は小さな川があり、清らかな水が苔むす石をたたき、さらさらと音を立てて流れていた。山合いの開ける所に近いこの川の下流に小さな滝があり、そこに不動明王の御堂が建っていた。この近くには、幾つかの石仏や石の碑があり、老杉にはいのぼる藤があった。この藤づるの太さにおどろく。

この不動明王裏から、藪におおわれた小川に沿って山道を登る左右に、特に左側に多く巨岩累々と点在し、その岩石の表面に約一メートル程の観音像が線刻で一駆または二駆三駆施されていた。彫刻されている磨崖仏の数は三十三躯あるというが岩質のもろい花崗岩であるためいづれも著しく損耗しており各像の顔面その他が剥落して、形を見極めることのできるものは数躯にとどまる。だが幸い像容は比較的しっかりとできていて往時の偉容を今に伝えている。

永い風雪に崩れたとはいいい菩薩像の作風は、体軀、納衣の跡が流麗で美しく、永い時間この磨崖仏の前に立っていると不思議と往時の様子が浮かびあがってくる。磨崖仏には岩自体に個性の豊かなものがかんり多く見うけられるが、この磨崖仏の岩も数カ所個性があり、特に左側の最上部にある岩石は上方がなだらかな湾曲にめぐり取られているような形が数条ある。

小平祐心さんは、これを蛇なめ石と称していた。この岩の表面の線刻像の下部には義運斎の文字が鮮明に彫刻されている。書体や刻風から見てこの文字は彫刻像と作風が異なるように見受けられた。また、右側の山腹に大きな岩があり、その上をおおうように巨岩が乗っている。聞くところによるとそこに彫造されている像は三十三軀中の最後の菩薩像とのことであった。ここから杉と雑木のあるけわしい斜面を五十メートル程降ったところに二、五メートル程の岩があり、この側面に約一メートル程の大きさで梵字が一字彫刻されていた。

この梵字は不動明王の尊像種字と思われた。梵字の彫刻はこのはか左側の山腹にある岩面に菩薩像と並んで日光菩薩尊像の種字と思われる梵字が円の中に彫刻されていた。